
歩美を助ける

タッキー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

歩美を助ける

【Nコード】

N0298A

【作者名】

タッキー

【あらすじ】

探偵団たちはいつものように学校にいた。しかし、今日はちょっと違った。

少年探偵団＋灰原はいつものように学校にいて普段と変わらないと思っただけ、今日は違った。

光彦「歩美ちゃんどうしたんでしょね」

元太「本当だよなー。連絡もいれなくて休みなんて」

灰原「何かあったのかしら？江戸川君はどう思う？」

コナン「さーな。でも心配だよな」

もうすでに歩美が危険な身であることも知らずに……

……その帰り道……

元太「じゃあな」

光彦「また明日学校で」

元太と光彦と別れたコナンと灰原は

コナン「なあ灰原」

灰原「何？」

コナン「やはりおかしいと思わないか歩美ちゃんが連絡もなく休むなんて」

灰原「ええそうね。明日も来なかったら様子見に行きましょう」

コナン「ああそうだな」

そう言っただけ帰ったコナンは

コナン「ただいまー」

蘭「おかえりー。あ、コナン君手紙が来てるよ」

コナン「え、ぼくに」

蘭に言われててがみを貰った。

コナン「歩美ちゃんからだ。何だろう」

その手紙こそが事件の始まりだった。

コナンはその手紙を見て驚いた！

コナン君へ

歩美悪い人に誘拐されちゃったみたい。

しかもその人拳銃持っていてこわいよー

歩美その人に殺されるかもしれない

今歩美のいる場所はたぶんどこかの倉庫だと思うから

だから早く来てください

歩美より

それを見たコナンはすぐ走って博士の場所に行った。

博士「おお新一どうしたそんなにあわてて」

コナン「あ、博士。灰原呼んでくれ」

博士「いったいどうしたんじゃ」

コナン「いいから早く」

博士「・・・ああ分かった」

と言って灰原を呼んできた

灰原「どうしたのそんなにあわてて」

コナン「ちょっとこれ見てくれ」

そう言つて2人に手紙を見せた。

灰原「なんですって」

博士「なんじゃと」

2人も当然のように驚いた

コナン「とにかく歩美ちゃんが危ないんだ。だから灰原来てくれ」

灰原「わかったわ。とにかく早く行きましょう」

コナン「ああ、博士後は頼む」

博士「ああ、分かった。じゃあ新一後は頼むぞ」

コナン「おう、必ず助けってくるから」

そう言って歩美の搜索が始まった。しかし歩美は探偵団バッジを持っていないので探すにも一苦勞である。

・・・搜索中・・・

もちろんコナンと灰原は必死である。なにしろあの歩美ちゃんのできごと怖がっているにちがいない。

コナン「歩美ちゃ ん、どこだー」

灰原「やばいわね。日が沈んできたわ。早く見つけないと」

そう、もう今は5時。冬なので日が沈むのも早いのである。

コナンは偶然にも地面に紙があるのに気がついた。その内容はこうだった。

この道をまっすぐ行って3つ目の角を左に曲がれ。そうすれば

君らの友達が待っているぞ！早くこないと友達が危ないぞ
早く来たほうが身のためだぞ

人Eより

犯

コナン「君ら？俺たちのことを監視しているのか・・・」

灰原「ねー工藤君、この犯人Eってもしかして……」

灰原はコナンの耳元で……じゃないの？と言った。

そしてコナンたちは歩美ちゃんのいる倉庫へ向かった。

灰原「見て、歩美ちゃんよ。」

そこには手足が縄で結び付けられた歩美ちゃんがいた。

コナン「歩美ちゃん」

歩美「コナンくん」

コナン「待ってる、今助けてやるからな」

バーン。一発の銃声が倉庫の中に響き渡った。

犯人E「お遊びはそこまでだ。小さな子供たち」

灰原「やはりあなただったのね連続誘拐犯の江崎登さん。」

江崎登とは今までで15件の誘拐事件を引き起こしていて身代金を要求している犯人のことである。

江崎「ばれてしまっってはしかたがないな。動くんじゃない。この少女の命がないぜ。」

コナン「くそー絶対ゆるさねー。」

とは言ってもこの倉庫に蹴るものはなく、キック力増強シューズもつかえないし、時計型麻醉銃も壊れている。絶体絶命である。

コナン「くそーこのままじゃ歩美が殺される」

と思ったコナンは命がけて江崎の場所へとびかかった。

江崎「なに」

そこから江崎の拳銃を奪い、威嚇に何発も打った。後に江崎は自首して事件は終わった。

・・・事件後の帰り道・・・

もう夜の7時である。つまり真つ暗である。

歩美「ありがとう。コナン君、哀ちゃん」

といい歩美はコナンにキスをした。

歩美「じゃあまた明日学校で・・・」

コナン「ったくあいかわらずだな歩美ちゃん」

灰原「クス」

コナン「何がおかしいんだよ灰原」

灰原「別に」

コナン「こいつマジかわいくねー」

と思いながら2人は別れた。

コナン「じゃあなーまた明日」

灰原「ええ、また明日」

そして翌日、光彦と元太にしばかれたのであった。

(後書き)

・・作者より・・

初めての小説なのでうまくいきませんでした。が、がんばっていき
たいと思います。

今後先もよろしく^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0298a/>

歩美を助ける

2010年10月30日22時45分発行